

SHOW HEY シネマルーム

★★★★

熱帯魚 デジタルリストア版 (熱帯魚/Tropical Fish)

1995年/台湾映画

配給: オリオフィルムズ、竹書房/108分

2019 (令和元) 年 10月 22日鑑賞

シネ・ヌーヴォ

Data

監督・脚本: 陳玉勳 (チェン・ユーシュン)

出演: 林嘉宏 (リン・ジャーホン) / 席敬倫 (シー・チンリン)

/ 林正盛 (リン・チェンシェン) / 阿匹婆 (アピボ) /

文英 (ウェン・イン) / 連碧東 (リエン・ピートン) / 黄美文 (ホアン・メイウエン)

/ 羅斌 (ルオ・ビン) / 李靜美 (リー・ジンメイ) / 陳慕義 (チェン・ムーイー)

👁️👁️ みどころ

中国に陳凱歌 (チェン・カイコー)、張藝謀 (チャン・イーモウ) 監督あれば、台湾には侯孝賢 (ホウ・シャオシェン)、楊徳昌 (エドワード・ヤン)、さらに蔡明亮 (ツァイ・ミンリャン) あり! 小津安二郎、黒澤明ら日本の巨匠と並んで、彼らの作品は歴史に残る名作揃いだ。

他方、38年間も続いた戒厳令が解除され、急速に民主化が進む台湾に突如登場し、1995年のこのデビュー作で第48回ロカルノ国際映画祭青豹賞を受賞したのが陳玉勳 (チェン・ユーシュン) 監督。厳しい受験競争の中で、格差が広がっていく当時の台湾を生きる、ちょっと変わった若者たちの生きざまを、何と誘拐事件をテーマにひょうひょうと描いた本作は面白い。

園子温監督の『冷たい熱帯魚-Cold Fish』(10年) は恐ろしい熱帯魚だったが、さて、英題を『Tropical Fish』とする本作の熱帯魚は、どこをどう泳ぐの・・・?



■台湾の陳玉勳監督をはじめて発見! ■

日本に小津安二郎、溝口健二や、黒澤明、今井正等の世界的に有名な監督がいるのと同じように、台湾にも侯孝賢 (ホウ・シャオシェン)、楊徳昌 (エドワード・ヤン)、蔡明亮 (ツァイ・ミンリャン) 等の世界的に有名な監督がいる。私が最初に知ったのは、『悲情城市』(89年) (『シネマ17』350頁) のホウ・シャオシェン監督だが、その後、『古嶺街(クーリンチェ)少年殺人事件』(91年) (『シネマ44』184頁) でエドワード・ヤン監督を知り、さらに『西瓜』(05年)、『樂日』(03年) (『シネマ17』270頁、276頁) で、韓国の天才キム・ギドクにも比肩しうる台湾の天才ツァイ・ミンリャン監督を、『迷子』(03年) (『シネマ17』280頁) で、すべてのツァイ・ミンリャン監督作品で主役を演じてきた李康生 (リ

ー・カンション) 監督をはじめて知った。

また、4Kデジタルリマスター版でリバイバル上映された『残酷ドラゴン 血斗竜門の宿』(67年)と『俠女』(71年)(『シネマ44』180頁、182頁)で胡金銓(キン・フー)監督をはじめて知り、今回はシネ・ヌーヴォで開催された「台湾映画傑作選」で、はじめに陳玉勳(チェン・ユージュン)監督を知ることになった。

■□■初監督作品で第48回ロカルノ国際映画祭青豹賞を!■□■

中国映画の“ヌーベルバーグ(新潮派)”とも言うべき、第5世代監督の陳凱歌(チェン・カイコー)と張藝謀(チャン・イーモウ)による中国映画史上「最も重要な事件」は、第1に1985年にチェン・カイコー監督の『黄色い大地』(84年)(『シネマ5』63頁)が第38回ロカルノ国際映画祭で銀豹賞を受賞したこと。第2に、1988年にチャン・イーモウ監督の『紅いコーリャン』(87年)(『シネマ5』72頁)が第38回ベルリン国際映画祭でグランプリを受賞したことだ。

それと同じように、台湾では、1995年にチェン・ユージュン監督の本作が第48回ロカルノ国際映画祭で青豹賞を受賞したが、それはなぜ?

■□■時代は?舞台は?台湾の変化は?■□■

日本は1945年の敗戦から一転して、アメリカの占領下で平和国家、民主国家に変化していった。しかし、大陸から日本帝国主義を追っ払った中国では、共産党と国民党の「国共内戦」が続いた末、蒋介石率いる国民党は台湾に逃走し、「内省人」を弾圧した挙句、長い「戒厳令」を敷いた。台湾の重く苦しいこの時代の歴史は、侯孝賢(ホウ・シャオシェン)監督の『悲情城市』や、萬仁(ワン・レン)監督の『スーパージーン 超級大国民』(95年)(『シネマ44』191頁)等で描かれている。しかし、1987年に38年間も続いたその戒厳令が解除されると、台湾は日本と同じように、いやそれを上回る猛スピードで民主化と経済成長が進んだ。

本作のパンフレットは、その時代について「1990年に米TIME誌が「貪欲な島」と形容したように、台湾中の誰もが株式投資や不動産投機に走り、賭博に興じ、拝金主義的な価値観が誘拐事件を含む凶悪犯罪を誘発した時代でもあった。社会はバランスを欠き、都市と地方、貧富、高学歴と無教養等様々な格差に溢れていた。」と解説している。そんな(いい意味での)激動の時代なればこそ、本作は「当時の世相を反映するさまざまな要素をユーモアたっぷりに盛り込みつつ、急速に都市化する生活で失われつつあった、台湾人が元来持ち合わせている古き良き人情味や、素朴さ、そして人の良さをコミカルなタッチで描いた野心作。」らしい。そしてまた、「その背景は、台湾青春映画『あの頃、君を追いかけた』(11年)や『私の少女時代』(15年)に描かれる、1990年代半ばの台湾のリアルタイムな姿であり、チェン監督の考える荒唐無稽な台湾の日常だった。」そうだ。本作が公開された1995年は、日本では1月17日に阪神淡路大震災が起き、3月には地下鉄サリン事件が発生した、歴史に刻まれる年。そんな年に、台湾では、陳玉勳(チェン・ユ

ーシェン) 監督が本作のような面白い映画を作っていたとは!

本作の舞台は、台湾南部の西海岸にある東石村。嘉義市のすぐ西側だ。しかして、本作はなぜ『熱帯魚』というタイトルなの?台湾にはホントに熱帯魚がいるの?いくら台湾が日本より南にあり、暖かい気候の国でも、熱帯魚はいないはずだが・・・

■□■誘拐は凶悪犯罪だが、本作ではどこかにほのぼの感が■□■

誘拐、とりわけ身代金目的の誘拐が凶悪犯罪であることは1963年の「吉展ちゃん誘拐殺害事件」でもハッキリしているし、瀬々敬久監督の『64ーロクヨンー前編』『64ーロクヨンー後編』(17年)(『シネマ38』10頁・17頁)でもハッキリしている。また、1700万ドルの身代金が要求された『ゲティ家の身代金』(17年)も、陰惨な誘拐事件だった(『シネマ42』172頁)。他方、同じ誘拐事件でもちよつとのどかでほのぼの感のある誘拐(?)が『幸福なラザロ』(18年)(『シネマ45』149頁)だった。それは“ある特殊な理由”のためだが、陳玉勳監督が本作で描く誘拐事件も、のどかでどこかほのぼのしているから、それに注目!

主犯の頼(ライ)(チェン・ムーイー 陳慕義)に誘拐された小学生が、王道南(ワン・タウナン)(シー・チンルン 席敬倫)。そして、ある日ニュースで見た誘拐事件の被害少年ワンが犯人らしき男と一緒にいるところに出くわし、ワンを助けようとして逆に共に誘拐されてしまったのが、本作の主人公劉志強(リョウ・ツーチャン)(リン・ジャーホン 林嘉宏)だ。ところが、主犯のライが不慮の交通事故で死亡したため、その後を継いだ子分の阿慶(アケン)(リン・チェンシェン 林正盛)は、途方に暮れながらも、少年たちを連れて祖母や弟妹が暮らす故郷の東石村に戻り、家族と共に身代金奪取を目論んだが・・・。

『64ーロクヨンー』では誘拐犯と警察との手に汗を握る攻防戦が見物だったし、『ゲティ家の身代金』では、大富豪が「私には14人の孫がおり、一度支払えば14人の孫全員が誘拐されることになる」というもつもらしい理由で身代金の支払いを断固拒否する姿が印象的だった。しかし、本作では、東石村に住むアケンの家族たちが電話で身代金要求を伝える風景自体がのどかでどこかにほのぼの感が・・・。ああ、この人たちはホントはいい人たちだとすぐにわかるから、その脅迫行為や脅迫文言に全く迫力がないうえ、その行為自体が“お笑い”のようにさえ思えてくる。それは一体なぜ?本作では、そんな誘拐事件のどこかほのぼのとした雰囲気をしっかり味わいたい。

■□■熱帯魚はどこに?■□■

『バッド・ジーニアス 危険な天才たち』(17年)は、奨学金付の海外留学の夢を果たすために、若者たちがマークシート方式の入学試験の“カンニング”に精を出す、面白い映画だった(『シネマ43』205頁)が、それはタイも「学歴社会」だということが前提になっている。それと同じように、1995年当時の台湾も、「高中聯考」と呼ばれる高校入試の統一試験がめっちゃ難しいことを前提として理解しなければ、当時台湾で頻発していた誘拐事件に高校入試を控えた生徒が巻き込まれるというユニークな設定のコメディ映画の

本当の面白さは理解できない。

本作冒頭、高校受験を間近に控えながらも、現実より夢の中で生きている少年ツーチャンが受験勉強に全く身が入らず、片思いの女の子にラブレターを書き、ラジオから流れる物語の世界に逃避している姿が描かれる。そんなツーチャンがある日ワンと共に誘拐されてしまったから、さあ大変。「高中聯考」の日は刻一刻と迫ってくるが、誘拐されたままのツーチャンが受験勉強に精を出すことができないのは当然だ。テレビではニュースキャスター（ラン・ズーユン 郎祖筠）が、誘拐事件の悪質さもさることながら、その被害者が受験生だということを取りわけ強調したこともあって、世間の目はツーチャンの解放よりも、ツーチャンが「高中聯考」を受けられるかどうかに注目が集まっていた。なるほど、当時の台湾の「高中聯考」はそれほど大変なイベントだったわけだ。

しかし、本作のスクリーン上には、時々、優雅に泳ぐ熱帯魚が登場するが、これは一体何を暗示しているの？園子温監督の『冷たい熱帯魚』（10年）も、本作と同じように熱帯魚が何かを暗示していた（『シネマ26』172頁）。その英題が『ワールド・フィッシュ』だったのに対し、本作の英題は『トロピカル・フィッシュ』。その両者を比べると、同じ熱帯魚でも大違いだから、その違いにも注目！

■□■誘拐犯の家族は？彼らはどんな協力を？その不手際は？■□■

『ゲティ家の身代金』では、誘拐されたゲティ3世の母親は、ゲティの息子と結婚しながら、離婚の際には一切の慰謝料、財産分与、子供の養育費を放棄する見返りに、子供の養育権と監護権を獲得してゲティ家と縁を切った女性だった、という複雑な家族関係や、ゲティの孫が14人もいることが大きなポイントで、そのことがギスギスした人間模様を浮き彫りにしていた。本作はそれと正反対で、死亡したライに代わって横滑りに誘拐事件の主犯になってしまったアケンが故郷の東石村に戻ってきたため、家族も必然的に彼と共に身代金奪取に精を出すことになっただけ。相次ぐ台風被害で水浸しになっている彼の家は、漁業に精を出しているものの貧乏そのものだし、妹の阿娟（チュエン）（ホアン・メイウエン 黄美文）は「高中聯考」を受けることすらできずに働かざるを得ない状況だったから、誘拐で身代金が入ればラッキー。

そんな気持ちでアケンに協力する家族は、認知症気味の阿嬷（おばあちゃん）（アピポー 阿匹婆）を筆頭に、阿雄（ヒョンおじさん）（リエン・ピートン 連碧東）、阿姨（おばさん）（ウエン・イン 文英）、その娘のミンツーとその夫のチャン、そして弟のヘンと妹のチュエンたちだ。しかし、彼らにとって誘拐犯として身代金を要求する電話ははじめての体験だったから、そこにはいろいろな不手際が・・・？その最大のものは、電話している間に家族が口々に話しかけたことだが、いくら何でもそこで本名を呼ぶのはマズいのでは・・・？また、彼らのマヌケぶりはアケンの弟ヘンが何度ツーチャンの自宅に電話を掛けてもつながらなかったというくだりにも現れる。なんと、彼は東石村から台北に電話するについて、市外局番を回すのを忘れていたらしい。

更に、誘拐事件では『64ーロクヨンー』で見られたように、金の受け渡し場所をどこに定めるかが最大のポイントだが、彼らは「中正路のピンロー屋台」と指定しただけだったから、犯人一家は東石村から一番近い嘉義市内の中正路を想定していたが、警察が台北市内の中正路を想定したのは仕方ない。そのため、所定の時間になっても警察は犯人を逮捕できなかったが、そのことの功罪は？

■□■警官も牧歌的？誘拐事件もハッピーエンドに！■□■

吉本新喜劇では警察官が登場してもそこに厳しさはなくお笑いを誘うが、本作に登場する東石村の警官もお笑いを誘うほどではないが、どこか牧歌的。したがって、アケンたちは、「中正路」としか指定しなかったことによって身代金の受け渡しに失敗した挙げ句、脅迫電話を逆探知されてしまったから、普通ならそれで一気に捜査網が狭まり、犯人逮捕に至るはず。しかし、アケンたちはツーチャンとワンを船に乗せてさらに逃亡したから、捜査の手も後手後手に回ることに。本作では、警察の包囲網の狭め方がその程度なら、誘拐犯たちもどこか牧歌的だ。その中でも面白いのは、入試の日が近づいてくるのを知った誘拐犯たちが、ツーチャンの受験に協力するべく、妹のチュエンが以前使っていた教科書や参考書を差し出し、受験勉強を続けられるように協力する姿。それは、船で洋上に逃げ出した後も続くから、それに注目！

そんな状況下、本作のクライマックスは、入試の前日になってツーチャンの将来を案じたアケンがついに身代金を諦め、2人を台北に返すことを決意するところから始まる。これは、連日報道されるニュースキャスターの発言に影響を受けた面もあるが、ポイントはやはりアケンの人間性と思いきり。しかして、本作クライマックスの焦点は、無事ツーチャンが入試を受けられるかどうかに移るが、その前に警官の前に現れたアケンたちの逮捕が先だ。ところが、そこで2人の少年は、「犯人に海へ放り出された後、アケンが助けてくれた」と証言したから、アケンたち誘拐一家の罪はどうなるの？

そんなこんな吉本新喜劇を彷彿させるドタバタ劇の中、ツーチャンを乗せたパトカーは一路台北の入試会場に向かうことに。そこでは、誘拐事件のハッピーエンドを暗示し、ツーチャンの合格を暗示するかのよう、チュエンの手紙で彼女の“ある秘密”が暴露されるので、それに注目！さらに、その手紙と共に託されたガラス瓶の中では熱帯魚が泳いでいたが、さて、これをあなたはどうか解釈？

2019（令和元）年10月30日記